

### 第3章 若者自らの取り組み

「NPO 法人 neomura (東京都世田谷区) の取り組みについて」

新井 佑 氏 (NPO 法人 neomura 代表理事)

松井健太郎 氏 ( 同 監事)

(第2回研究会でご講演いただいた内容をご確認いただき掲載しています。)

#### 1. はじめに

NPO 法人 neomura は、世田谷区を用賀を中心にさまざまなまちづくりの活動をしています。neomura という名前のとおり、新しい (neo)、ムラ (mura) ということです。ただ、昔の村社会を「変えてやる」という感じではありません。どちらかといえば、今までの古き良きものを現代版に再構成、あるいは再解釈し、アップデートしていく。われわれはそういうようなスタンスをとっています。だから、既存の地域の方々との対話はとても重要視していますし、対話から多世代が交流して新しいものを見つけ出していく考えで取り組んでいます。

#### 2. 活動内容

##### (1) 最初はゼロイチから祭りを開催

活動内容については、「遊び事」、「暮らし事」、「学び事」、「仕事」、「ワイワイ事」の5つのカテゴリーに整理しています。

1番目の「遊び事」ですが、私がこの活動を始めたのがまずお祭りでした。まだ大学2年生のときでしたが、用賀で完全にゼロイチでゲリラ的にお祭りを開催したのです。そもそも私自身は当時、まちづくりに対して興味がなく、バンド活動をしていた関係で地元の用賀で仲間たちと音楽イベント的なことをしようというのが最初のきっかけでした。ただ、地域のなかで場所の許可などを取るためにさまざまな方々のところへ行脚したわけですが、そのなかで次第にかたちがお祭りへと変わっていった経緯があります。

当時は大学生ということもあって、学生主体のお祭りというフレームワークができあがり、それが今の用賀サマーフェスティバル(毎年8月末開催)に通じているということになります。学生主体とは、学生が企画をし、制作物も学生が自らつくり、当初はお金を集めるのも学生が営業活動も全てしていました。なお、現在は後ほど述べますが、「チーム用賀」というコミュニティを交えながら多世代でサポートも行っています。

現在、用賀サマーフェスティバルに関わっている学生たちは、企画スタッフが約30名、当日に100名ほどが動いています。そして祭りへの来場者数は1回目(2005年)が100名程度だったかと思いますが、今や約1万5000人もやってくるイベントに仕上がっています。

学生については、近隣大学の授業の一環で関わるケースもあります。ただ、学生は3年生になれば就活が始まり、そして卒業していきますから、直接関わるのは1~2年程度と流動性は高いです。けれども、こうした地域の祭りに継続的に関われる環境があることで友達の友達というようなネットワークができています。

## (2) 学生を核に多世代で支え合う

用賀サマーフェスティバルのイメージとしては、文化祭をまちでやっているというような感じだと捉えてください。例えば今回だと、中学生が司会をやったり、高校生が企画した屋台をしたり、小学生が小学生のためのブースを考えたりもしています。ただし、そのエンジンは大学生です。その周りを大人たちがサポートできるような仕組み（オトナインターン等）も整えており、大学生を核としながらも、多世代で地域が支え合いながら成り立っている構図が今はできあがっています。

最近では閉塞感などから若者の自己肯定みたいところが社会課題となつていますが、学生にはとにかくやりたいことを全力でやってもらいたいというのが、われわれの最初からの思いです。大学で勉強したことが社会で本当にできるかどうか。そういう思いの学生には、治外法権ではないけれども、用賀ならば何でも試すことができる。そのように認識してもらえるところにしたいと考えています。

例えば、「建築が好きで何かつくってみたい」という建築学科の学生がいたことから、「用賀に来たら、大工さんや工務店を紹介してあげるから、一緒にやろうよ」と。そして実際にBARを建てる時に関わってもらいました。そのほかでは、仮想通貨に興味がある学生の声に応え、サポートメンバーを集めて日本初のお祭りで使える仮想通貨もやりました。また、「プログラミングを授業で習ったけれど、それをアウトプットする場所がなかなかない」という学生もおり、そういう場を提供するようなこともしています。

## (3) 作戦会議の場を設置

こういったお祭りの開催など「何かをやろう」というときには作戦会議をします。でも、当初は数人で室内でしていたため、われわれの顔が見えるのは開催日の2日間だけという状況でした。その当時は話し合うような場所を自分たちで持とうなどとはまったく思っていなかったもので、基本的にはマクドナルド等でミーティングをして当日を迎えるという感じだったのです。

でも、そのように1年のうちで限られたときにしか顔が見せられないのはもったいないという思いになり、開催に向けたプロセスも見せられるようにでき

ないかと。そして地域との関係性が築かれていくなかで、商店街の方から「じゃあ、ここを使ってみたら」と提案をいただき、商店街の一角にそうした場を構えることにしました。

それが今、用賀のコミュニティプレイスと位置づけている飲食店の「neobar（ネオバル）」です。2023年からは会員制コミュニティバルとして運営しています。そこで祭りのときなどは学生たちを中心に顔を合わせて企画を練ったり、地域とのコミュニケーションを図ってまちとの関係性を築いています。

なお、もともとこの場所は「neochi（ネオイチ）」という名称で物産店をするところからスタートしました。しかし、結果的に赤字になってしまい、業態変更をしたという経緯があります。そのときに僕たちの本質はものを売るのではなく、対話やコミュニケーションを通してまちとの関係性を育んでいくことだと気づきました。

### 3. 地域コミュニティ「チーム用賀」が誕生

#### (1) 飲み会をベースに関係性を育む

この「neobar」では当初、友達同士の飲み会の場くらいのレベルだったのですが、それをもう少しきちんとしようということで月に1回、定期的に飲み会を開くようにしました。それをわれわれは定例会と呼んで継続的にやっています。そのほかにも75歳のおばあちゃんにみそづくりを学ぶようなワークショップ等も開催しています。

また「neobar」では、月、火、水、木、金、土のそれぞれで店長制を敷き、「月曜日の担当は誰々」というようなスタイルをとっています。仕事の傍らで週1回の店長をするのは大変なのですが、そうやって高い頻度で関わっていくなかで人と人との輪がだんだんと広がっていき、そこから「チーム用賀」というコミュニティ（Facebook 地域コミュニティ）も生まれました。

今、「チーム用賀」には約2100人（2023年6月15日現在）が所属しています。「neobar」に来た人たちに声を掛けて入ってもらおうケースも多いため、用賀に住んでない人でも何かしらの個人的な関係性を持って入ってきてくれています。用賀サマーフェスティバルが始まったときと今とで大きく違うのは、この「チーム用賀」があるかないかではないかと思えます。

「チーム用賀」では、基本的には飲み会などをやり、みんなでたわいもない話をしているわけですが、でもそれが重要なポイントだと見えています。最近はそのような個人的に雑談ができるような機会ってあまりないのではないのでしょうか。例えば「夕日がきれいだったね」、「新しいお店ができていたよ」、「昨日、電車を乗り過ごしてしまったんだ」など、それほど重要ではない会話を気楽にできる。地域にそうした場があるからこそ、今の関係性が育まれているのではないかと

感じています。

われわれはこの「チーム用賀」を地域のcommonsとして掲げています。だから、neomuraが主要管理人ではあるものの、別にneomuraのものではなく、「みんなで自由に使ってください」という話をしています。ただ、commonsという概念を商店街の方々にお伝えしても理解していただきにくい面もあり、結局、「何かあれば、neomuraを通してください」ということになったりもしていますが、こういうものが今はできあがってきています。

## (2) 楽しくゴミ拾い

「チーム用賀」のみんなが集まってすることは基本的に飲み会が多いのですが、人は飲んでばかりいるとどこかに引け目を感じるというところがあり、ちょっといいことをしようと。そこでゴミ拾いだということになり、「チーム用賀」のなかでスピノフ的にゴミ拾いのチーム「用賀 BLUE HANDS (ブルーハンズ)」を結成しました。

「BLUE HANDS」のブルーというのは軍手の色です。そもそも用賀駅のホームのタイルの色が青で、われわれはそれを勝手に「用賀ブルー」と呼んでいたことから、コーポレートカラーみたいなイメージで青色の軍手を使い、「用賀 BLUE HANDS」だと。

「チーム用賀」は今、多世代ではあるのですが、「BLUE HANDS」を始めたころは30代の子育て世代がメインで活動をしていきました。土曜日の朝、子どもたちと一緒にゴミ拾いをしていると、本当に楽しく作業ができました。だから、ゴミ拾いが目的というよりは、コミュニケーションのためにゴミを拾うみたいなかたちにだんだんと変容していったのです。

さらに最近では、ゴミを作品化できないかという発想から、みんなで拾ったゴミの中からMVG (Most Valuable Gomi) を1個決めるようなこともしています。MVGに選ばれたものはキャプション化してストーリーを持たせて記録していますが、これを1年間通してやった後には個展もやってみたいと。このようにゴミ拾いを少し面白おかしくできる工夫をしていますが、これを経験した人が移住先でも同じようなゴミ拾いを地域で行うような事例もあり、他地域との関係性もできつつあります。こうした何にもないところにちょっと価値を見いだしたり、スポットライトを当てるのは、neomuraの思想ともすごく近いです。

## (3) 地域の学びの場、区と協働でコミュニティ農園

neomuraでは、オンラインの学び合いの場となる「ようがっこう」も行っています。何かテーマを決めて地域のみんなで学べるような場をつくろうと。現在は「生き方クラス」、「おしごとクラス」、「循環クラス」がありますが、そのほか

に自主的に勉強会を開催したりもしています。

オンライン授業なので、過去のアーカイブ(ムービー)を見ることもできます。私は地域メディアでこうした住人の普段の暮らし、ストーリーなどが分かることは、とても大事だと考えています。アーカイブを実際に見ても、人それぞれに生きているのだとあらためて感じさせられます。

あと世田谷区と協働事業で「タマリバタケ」という公園付きのコミュニティ農園をやっています。こちらは用賀ではなく上野毛のほうになりますが、溜まり場という居場所的な機能と畑という「農」の部分、これが重なっているようなところ。これは週1回、土日交互で実施しています。

ここはもともと道路代替地のために将来的には何か建ってしまうかもしれませんが、今は活用できていない土地をどのように有効活用するかというミッションがありました。特に上野毛地区は高齢の方が結構多くお住まいだったことから、こうした地域課題が出てきた。それに対して neomura が手を挙げさせてもらい、今、世田谷区との協働事業としてやっています。この協働事業は雑誌に取り上げられるなど注目を集めています。

#### (4) 地域通貨、現代版「花掛け」も

地域通貨もつくりました。eumo (ユーモ) という会社がありまして、その代表を neomura の理事の武井(浩三) という者がやっているのですが、そのシステムを使って「用賀ワイワイコイン」と銘打って地域マネーをつくりました。加盟している店舗数はまだまだ少ないのですが、こちらの特徴としては応援したいお店などにチップを乗せられたり、メッセージも送れたりできます。

「用賀ワイワイコイン」を実装した背景には、冒頭の用賀サマーフェスティバルのことも若干関係しています。なぜなら、お祭りはいわゆるイベントなので一過性で終わってしまいます。その「ハレ」と「ケ」をどのように接続させるかという課題がわれわれのなかであって、そこを接続させる解決策の1つとして地域マネーがあるのではないかと。お店の焼きそばでワイワイコインを使い、余ったお金もまちで使えます。これは期限があるものの、そういうかたちでつながっていければいいなという思いで今、いろいろとやっているところです。

さらにこれはノリという感じなのですが、「ワイワイコイン」というものもチーム用賀でやろうということで今、OEM でやりつつあります。このように何かプロジェクトをやろうというときに、「チーム用賀」のなかで声を掛ければ、いろいろと人が集まってきて実現していくというようなフォーマットができています。

用賀サマーフェスティバルをみんなで作ろうということでは、現代版「花掛け」もやっています。「花掛け」とは、お祭りなどで「のし」、「金、壺萬圓」な

どと書いてあるもので、それを現代版に再解釈するかたちでスプレッドシートを活用しています。

例えばステージに 40 万円かかるといった場合、4 分割して「10 万円×4」にしよう。そうすると、「じゃあ、ここを買うよ」と言いやすくなります。これを「チーム用賀」に流すと、たった 3 日間で 240 万円ほどが集まりました。今まではサマーフェスティバルに向けて学生がこつこつと営業をしていたのですが、共感経済、応援経済といえますか、「見返りなんていいから、頑張っ」と、「学生が頑張っやっていることに応援するよ」という純粋な気持ちでたくさんの方々から応援をいただいています。

そういう感じで「チーム用賀」と neomura の活動とかが合わさって今、さまざまなプロジェクトが進んでいます。この「チーム用賀」には、カラオケ部やラーメン部、麻雀部などテーマ性のある小さなコミュニティもたくさんできています。

#### 【質疑応答】

Q 私も「タマリバタケ」には時々参加させてもらい、この間は採れたてのカボチャを近くの福祉関係の施設で料理をしていただいたというようなこともありました。ご質問等、いかがでしょうか。

Q 用賀サマーフェスティバルのところで大学生の話がありましたが、卒業後もこの活動に関わっているケースもあるのでしょうか。

A 卒業した後、活動に関わっている人はほとんどいません。最近、わずかにいるくらいです。お祭りに向けては学生主体であることから、あえて「大人は入ってくるな」というようなスタンスをとっています。そのため、卒業したら「じゃあね」というような感じになってしまいやすい面もあるかと思います。でも、卒業後もサマーフェスティバルには足を運んできてくれて、当日は同窓会のようになっています。お子さんを連れてくる人もいて、「ああ、久しぶり」みたいに挨拶を交わして、その後に飲むといったような流れです。

ただ、サマーフェスティバルも 20 年近くやっている間にわれわれも年を取ってくるなかで、若者をいかに地域と交ぜるかといったことも考え始めており、卒業後にもつながりをどう継続させていくかといった文脈へ変わってきてつつあります。今後はやはりそうした方向がいいのではないかと思います。

Q 駅前には大手の企業もありますが、そういったところへもアプローチしているのですか。

A 当初はわれわれも若かったこともあり、さまざまな企業に積極的な営業活動をしていました。ただ、年数を重ねて地域との関係性ができてくるなかで商店街の方などと話し合いながら動くようにしています。やはり商店街の皆さんの協力がないとお祭りができませんから、そこを飛ばして大企業と組むというようなことはできません。地域の皆さんときちんと歩調を合わせながら、またコミュニケーションをとりながらやっていく。これが今の最新のスタイルになっています。

Q 用賀サマーフェスティバル等に関わった学生たちはその後、仕事を選ぶときであったり、政治や公共への関心などで変化はあるのでしょうか。

A 用賀サマーフェスティバルでは毎年 100 人ほどの学生が活動をしていて、それを約 20 年間も続けていますので、私自身も相当の数の学生たちと接してきました。最初はよく分からないまましているような感じなのですが、終わってから会う機会があると、「この活動を就活に使い、希望のところに行くことができました」というような感動のメッセージを毎年のように耳にしています。もちろん希望していたところに行けなかった人もいますが、「この活動で意識が変わって A 社ではなく、B 社を受けてみようと思います」という学生もいました。

また、なかには就職についてわれわれのところに相談に来る学生もいます。そうした相談を受けた際には、私で終わらせるのではなく、人を紹介したりとよりリアルなほうへコミュニケーションをとれるようにしています。学生はだいたいアルバイトくらいしか経験がなく、仕事となるとどうしてもハードルが高くなります。「1 回やってみたら」というようなことがなかなかできないわけです。その実証実験の場を地域に置くことで、学生たちもそこでいろいろと自己表現をしていくなかで成功体験を積んでいけます。そのなかで自己分析をして意識が変わっていく。そのように企業選びのルートがどんどんと整地化されていくような気がします。だからこそ、モラトリアムの 4 年間のこの時期にいかに地域に混ぜ込み、対話し、アクションをさせていくか。この点はとても大事だと思っています。

Q 実社会との接点がアルバイトくらいしかなく、でも、閉塞感もあるなかで「何かしないと」という焦りも出てくる。そうしたときに地域で実際に汗をか

いて体を動かしてみると、それが自信になり、就職への意識も変わっていくと。

A まさにそうです。やはり手触り感がすごく重要なのです。その「自分でやった」というテクスチャーをいかに持たせてあげるか。ここが大事になります。例えば大手飲食店でアルバイトをしたとしても、そこではシステムティックになりすぎてしまっていて、そこで自分の感情をアウトプットできるのりしろがほぼなかったりもします。あとは何か決済を取るにしても、そのプロセスがすごく重層的だったりもするので、そこをもっとシンプルかつミニマムにして、思いついたらすぐにそれができる環境を整えてあげる。そういう場があると、若者たちは輝くはずです。そういうことを考えながら、学生たちと関わっています。

Q 私は専門が NPO の研究ということもあり、過去 5 年間ほどの活動計算書を拝見しますと、ほかの多くの NPO は毎年同じような会計報告しているのですが、neomura は乱高下しています。毎年の事業計画はどのように決めているのですか。

A 先ほど「neochi」で赤字だったという話がありましたが、それをどうにかしようということで 2020 年からは私や理事の武井氏が関わり始めました。なので、2020 年からの数年で財政は健全化しており、その前後で根本的に大きく変わっています。あと、実は今日の話には出てきませんでしたが、商店街との関係性もあり、「neobar」は 2020 年 3 月に 1 回閉じているのです。そこも大きく変わっている点になります。

それと、やはりコロナの影響も受けています。用賀サマーフェスティバルも 3 年ほど間が空いており、2022 年によりやく復活ができました。一番のメイン事業はお祭りなので、これがそもそもなかった 2 年間と今とでは大きく変わっていて、こうしたことが乱高下している主な要因です。ただ、2020 年以降、私などが新たに入って「何かやりたいよね」というエネルギー自体はまた別の意味で増えていき、「neobar」がなかったときに居場所をつくろうということで始めたのが「タマリバタケ」です。事業の変遷という意味ではそのように変わってきています。

Q 人件費がずっとゼロなのですが、事務局体制がどうなっているのですか。

A 人件費については、もともと私や武井氏は「別に報酬とかは気にしなくていいよ」と、「いい活動しているのだから、今のこの状況を立て直すことから着



手しよう」というエネルギーからスタートしています。「立て直しがうまくいったら、またそのときに」ということでこの1~2年はやってきているので、報酬に関してはここまでゼロというのはそのとおりで、払うにも払えない状態だったというのが正しいところです。

ただ、もう1人、平床氏という理事が neomura に入ってきたのですが、彼女はそれまでの活動において NPO と経済的なバランスの両立の難しさを実感し、それに苦しんできました。だから、何とか人件費は多少なりとも出せるようにしていくという考え方でなければ、よくないよねと。neomura にそういう考え方の人が入ってきたので、いくばくかでも人件費を出せるようにしていこうというようになったのが、2022年10月からです。だから、そのときからは一応、人件費は出ています。

もともと、それほど多くの報酬が出ているわけではないので、今後は世田谷区との協働事業でスケールアップしていき、ここがうまく回り出すと、それなりに労働に見合った報酬が出るのではないかと見ています。どうしても NPO だからなかなかドライブできないという部分はありますが、どうにか経済性との両立をさせていきたいと。まさにこの1年ほどはそのことに向き合い始めているところです。

A 今の話の付け足しでいいますと、NPO といったら寄付が結構あると思うのですがけれども、neomura はこれまでそれをやってきませんでした。取りあえずやりたいことをやっていこうという感じだったのです。でも、最近になって neomura を応援してくださるファンの方々を募る「murafan (ムラファン)」を立ち上げました。一口1000円の寄付というかたちで、「チーム用賀」の皆さんに声を掛けたりしているところです。

Q この活動を通して人材をプールできているようなかたちですが、こういうすてきな仲間たちはどうやって集まってくるのですか。外から引っ張ってくるのでしょうか。

A 引っ張ってきたことは1回もありません。一緒に飲んだり、いろいろな活動をしているなかで、「今日もいつものあの人がいるな」と。そういう「いつメン」と何度かコミュニケーションを図るなかで、「じゃあ、理事やります」というような感じですか。

Q 「いつメン」は何名くらいいるのですか。

A お祭りのときの「いつメン」と、大人たちの「いつメン」は少し違いますが、「チーム用賀」で定例の飲み会をやると、だいたい 30 人前後がいるような感じでした。そもそも私や武井氏はもともと用賀の出身ではなく、近くのベッドタウンに住んでいます。そこでは核家族の世帯が多く、隣の家も知らない。駅から家に帰るまでに知り合いに会うかという、そういうものもない。「たまたまこの地域に住んでいるみたいなことではなく、地域でつながるようなことがあるといいよね」と、ちょうどそういうような話をしていました。

それまでは、山手線のなかに稼ぎに行って、そこで知り合いと飲んで、帰ってきて寝るまちでした。それが「チーム用賀」という地元で飲み会などをやっている、「なんか地元で友達が増えたよね」みたいな流れにどんどんなっていました。そうすると、「この活動をもっと面白くしたい」という熱量が上がっていき、そこにたまたま参加してくれていた人たちも「こんな面白いコミュニティがあったんだ」と。そうしたことが数年続いて定着してくれているような感じでした。だから、やはり活動を楽しくやり続けることが 1 つはキーになっていると思います。

A そうですね、地域活動におけるインターフェースで「楽しい」や「面白い」というのは大事です。それがプライオリティとしては一番上だと。それがなくてプロジェクトから入ってしまうと、何かビジネス的になってしまいます。私は名刺交換を 1 回もしたことがないし、名刺も持っていません。肩書やステータスなどではなく、人と人から生まれる関係性。われわれはその関係性を構築できる場をつくるというミッションがあります。だから、そういう魅力ある雰囲気をつくって「あそこに行くと何か楽しいんだよね」と。そうしたなかで人とのつながりができていくという強い基盤が地域にあれば、コミュニティや関係人口、さらには防災といった文脈にまできちんと昇華していけると考えています。

Q neomura の運営者は、そうした「いつメン」の人たちが 100% で構成しているわけですか。

A NPO としての neomura のメンバーは全員がそうです。

Q NPO を立ち上げのころからのメンバーは何名くらいいますか。

A 最初からでいうと、私だけでしょいか。

A 引っ越しや子育てなど人生のフェーズが変っていくなかで抜けていく理事もいます。

A 理事任期も今は 1 年間にしています。入ったら沼のように抜けにくい感じにはしたくなくて、誰もがもっとフットワークを軽くやっていけるようにしたいと。私自身も海外に少し住みたいと思っているので、海外に行ってまた戻ってくるといったことも今後にあるかもしれません。そういう行ったり来たりできるフレキシビリティも取り入れて、ライトかつカジュアルに地域活動をやっていけるようなデザインを描くことがすごく大事だという気がしています。

Q そうすると、逆に心配なのが、新井さんや松井さんがいなくなってしまうと、どうになってしまうのかと。

A そうなっても、少しキャラが変わるかもしれませんが、何とかなるでしょう。実際に今までの長い年数のなかで地域とのつながりは深くなり、情報もたくさん持っています。そして別に引き継ぐというわけではないですけど、私だけで地域の対応をしていたものを松井氏などにもやってもらうなど、その窓口的な接点を多様化しつつあります。そのことで外からもいろいろなキャラクターの neomura が見えるのでしょし、総合的に neomura の提案ができるのではないかと考えています。今はそうしたことを少し意識的に増やそうと。それを理事だけではなく、コアメンバーや飲み友達にまでうまく共有していければ、みんなでつくるまちという意識がより高まってくると見えています。属人的になるのはあまりよくないです。

Q でも、こうした活動というのはどうしても属人的になりがちですね。

A なりがちです。だから、仕組みでカバーすべきです。ただし、インターフェースを増やしても、その対話量が少ないとだめです。私としてはその対話量を増やすようにどのように組み立てていくかが大事だと考えてやっています。

Q 法人格を取ったのは 2016 年ですが、当時だと株式会社や一般社団という選択肢もあったかと思うのですが、どうして NPO 法人を選ばれたのでしょうか。

A 理由は、私に知識がなく、世の中に対して何かいいことをやろうというときのキーワードが「NPO」しか出てこなかったのです。最近では「お金の集めをしなければ」という話も出てきているなかで、「株式会社 neomura をつくろう」という声もあります。仲間が増えてくると、そうした知識もついてきます。

Q 人口などを踏まえると、地域でコミュニティ活動をしていくときに neomura の規模としては今、ちょうどいいのでしょうか。それとも、もっと大きくしていきたいのか。活動を継続していくと考えた場合、その辺はどのように捉えていますか。

A それほど大きくなくてもいいのかもしれないと思います。コアなメンバーの入れ替わりはあるでしょうし、一時的に活動量を減らす人も出てくるでしょうけれども、10人~20人の理事で運営するというのはちょっとイメージが湧きません。

A 私も同じような意見で、必要以上に大きくする必要はないと思っています。必要以上に大きくしてしまったから、世の中を見ていると、変なふうになってしまっている部分もあります。先ほど申し上げたとおり、手触り感、テクスチャリティが感じられる範囲内というのが基本的に大事だと考えています。

ただ、企業の方などと話をしていると「将来的に認定とかを目指してもいいんじゃないか」というような話が出たりもし、そういう文脈には乗っかりたいという思いはあります。だから、規模というよりも、相対しているコミュニティの皆さん、課題を持っている皆さんに対してどのように応えられるかに重点を置き、その手段として大きくなる必要があるならば、積極的にしていきたいとは思っています。

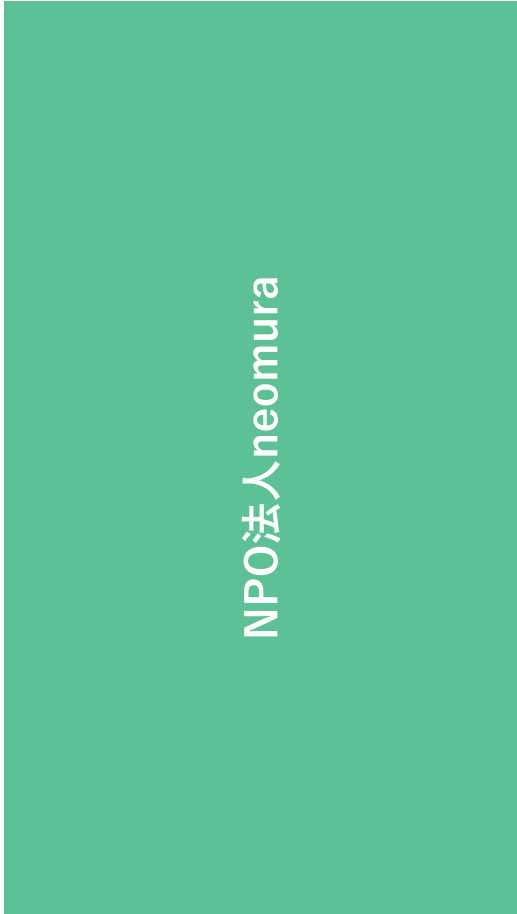
Q 関わっている人にどう伝えていくかと。

A そこはすごく大事だと思います。マーケットとして見てはいけないと。そこで暮らしている人たちの人生、生活をどのようによりよくしていくのか。それを一緒に考えて寄り添っていく。その点が本質的にすごく大事です。その結果、大きくなるのはよいのではないかと思います。

Q 私も「タマリバタケ」に何度か足を運ぶなかで、今言われた手触り感を強く感じました。さらに行く度に毎回異なる人が来ていて違う手触りを感じられ、キーワードとして出ていた「楽しさ」も体感できました。そういうところから

広がりが増えていくのではないかという印象を持ちました。

この研究会は、若い世代の人たちを中心に地域への参加や協働というよう  
なところをどのように考えていけるかをテーマしていますが、neomura では  
ほかに例がないような取り組みも多く、大いに参考にしていきたいと思いま  
す。



私たちが目指すこと (neomuraは法人というより概念)

## neomuraを、みんなで作る。

we create neomura.

自分のまちだから、自分が好きなまちにしたい。

自分たちのまちだから、みんなが笑顔になれるまちにしたい。

私たちは地元である用賀をフィールドにして、そんな想いの両立にチャレンジします。

**neomuraとは、neo (新しい) mura (ムラ社会) のこと。**

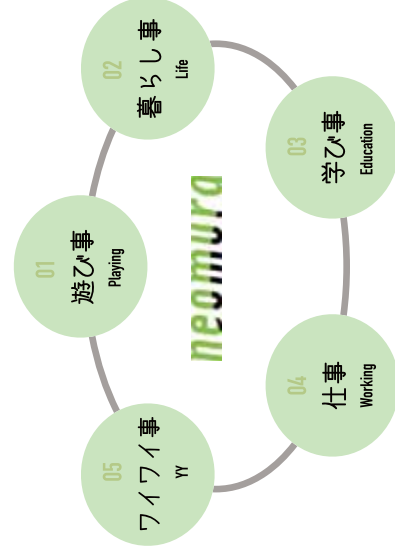
ステキなまちを築いてくださった地域の方々に最大限の敬意を兼ねながら

個人と地域社会のつながりを大切に、みんなでまちをつかっていければと考えています。



## 活動内容

## 活動内容



### 活動内容詳細①



学生主体の夏祭り /

## 用賀サマーフェスティバル



いつ?	毎年8月最終週の土日の2日間
どこで?	用賀くすのき公園周辺
誰が?	用賀にゆかりのある学生たちが主体となって
なぜ?	若者の地域における自己表現支援・用賀活性化


[youga-festival.com](http://youga-festival.com)

### 活動内容詳細②



用賀のコミュニティブレイス『ネオバル』 /

## neobar



いつ?	-
どこで?	用賀4丁目3-13 (※オープン時のみ)
誰が?	チーム用賀のみなさん
なぜ?	地域活動や懇親の場づくり


[facebook.com/groups/yougacomunity](https://facebook.com/groups/yougacomunity)

### 活動内容詳細②



facebook地域コミュニティ /

## チーム用賀




いつ?	-
どこで?	Facebook
誰が?	neomuraが主要管理人
なぜ?	用賀に縁のある関係人口創出


[facebook.com/groups/yougacomunity](https://facebook.com/groups/yougacomunity)


2023.06.15現在：2,082人

### 活動内容詳細③




facebook地域コミュニティ /

## チーム用賀

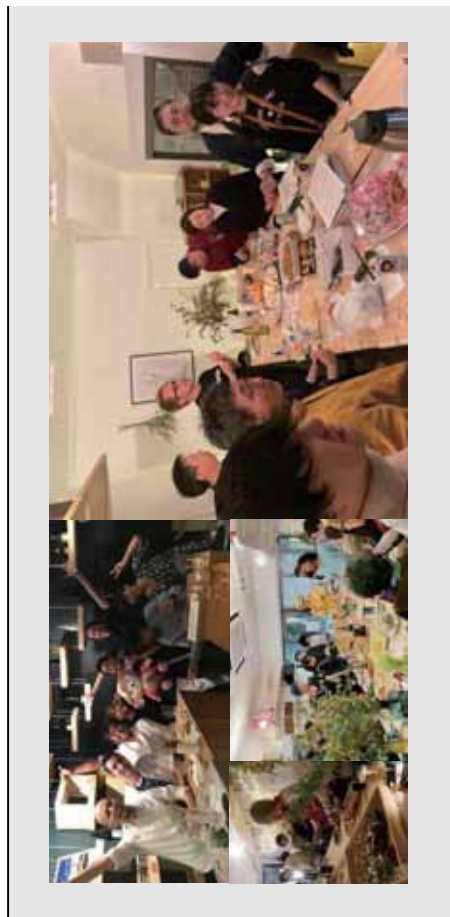


いつ?	-
どこで?	Facebook
誰が?	neomuraが主要管理人
なぜ?	用賀に縁のある関係人口創出


[facebook.com/groups/yougacomunity](https://facebook.com/groups/yougacomunity)

2023.06.15現在：2,082人

### 活動内容詳細③



### 活動内容詳細④



／用賀で楽しくゴミ拾い／

## 用賀BLUE HANDS

いつ？

毎月第1週の土曜日(10:00-11:00)

どこで？

用賀くすのぎ公園周辺

誰が？

用賀にゆかりのある人が子どもと一緒に

なぜ？

地域コミュニケーション促進支援・地域美化



neomura.or.jp/blue-hands

sponsor



### 活動内容詳細④



### 活動内容詳細④



／用賀で楽しくゴミ拾い／

## 用賀BLUE HANDS

いつ？

毎月第1週の土曜日(10:00-11:00)

どこで？

用賀くすのぎ公園周辺

誰が？

用賀にゆかりのある人が子どもと一緒に

なぜ？

地域コミュニケーション促進支援・地域美化



neomura.or.jp/blue-hands



活動内容詳細⑤



地域で学び合い /

## ようがっこう



いつ?	月1回程度 ※不定期
どこで?	オンライン / neobar
誰が?	用賀にゆかりのある人たちが
なぜ?	地域における学びの機会の提供

 [neomura.or.jp/yougakkou](http://neomura.or.jp/yougakkou)

活動内容詳細⑤













活動内容詳細⑥



チップを払っていきつけの飲食店を応援できる /


## 用賀ワイコイン




いつ?	—
どこで?	ワイコイン加盟店で使用可能
誰が?	—
なぜ?	お祭の賑わいを日常に接続・地域経済循環

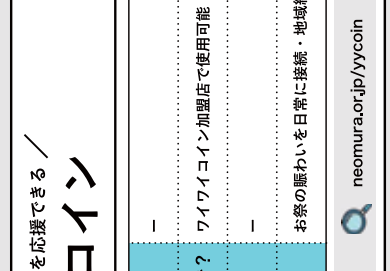
 [neomura.or.jp/yycoin](http://neomura.or.jp/yycoin)

活動内容詳細⑥









活動内容詳細⑦



## ワイワイワイン・ワイワイエール

地域飲食店への販促支援策

neomura.or.jp/yycolin

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">いつ?</td> <td style="padding: 5px;">-</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">どこで?</td> <td style="padding: 5px;">neobar</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">誰が?</td> <td style="padding: 5px;">-</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">なぜ?</td> <td style="padding: 5px;">用買の飲食店支援</td> </tr> </table>	いつ?	-	どこで?	neobar	誰が?	-	なぜ?	用買の飲食店支援
いつ?	-								
どこで?	neobar								
誰が?	-								
なぜ?	用買の飲食店支援								

活動内容詳細⑦



活動内容詳細⑧



## タマリバタケ

公園付きのコミュニティ農園

neomura.or.jp/tamari-batake

世田谷区  
協働事業

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">いつ?</td> <td style="padding: 5px;">週1回 (10:00-12:00) ※土日交互 上野毛地域 (上野毛3-25)</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">どこで?</td> <td style="padding: 5px;">上野毛地域の方々を中心に世田谷区さんと 都市農地の確保・地域コミュニティ作り</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">誰が?</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #00a09a; color: white; padding: 5px;">なぜ?</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> </table>	いつ?	週1回 (10:00-12:00) ※土日交互 上野毛地域 (上野毛3-25)	どこで?	上野毛地域の方々を中心に世田谷区さんと 都市農地の確保・地域コミュニティ作り	誰が?		なぜ?	
いつ?	週1回 (10:00-12:00) ※土日交互 上野毛地域 (上野毛3-25)								
どこで?	上野毛地域の方々を中心に世田谷区さんと 都市農地の確保・地域コミュニティ作り								
誰が?									
なぜ?									

活動内容詳細⑧



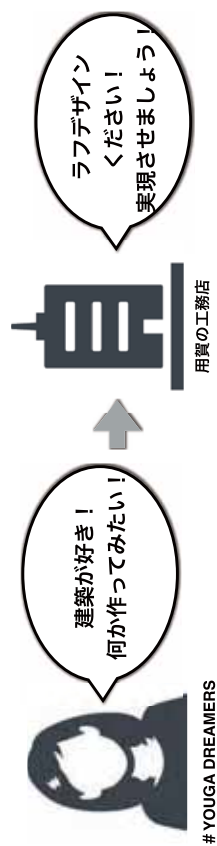
活動内容詳細③



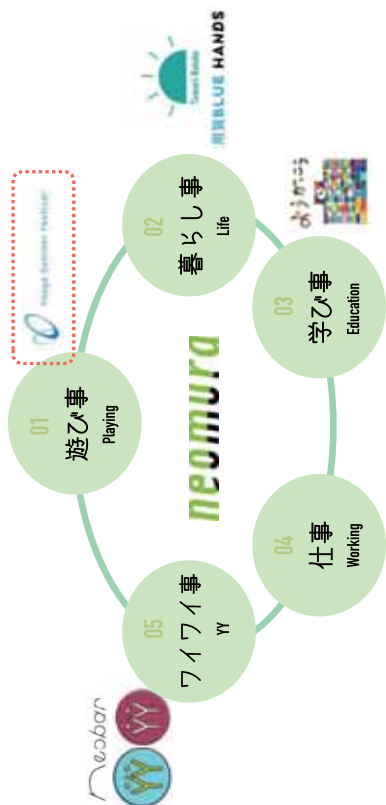
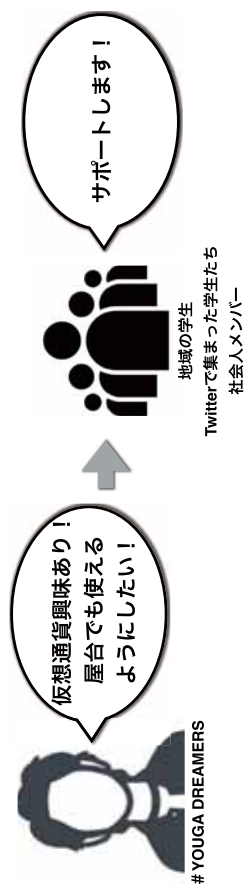
用賀サマーフェスティバル



DREAMERS CASE 1.

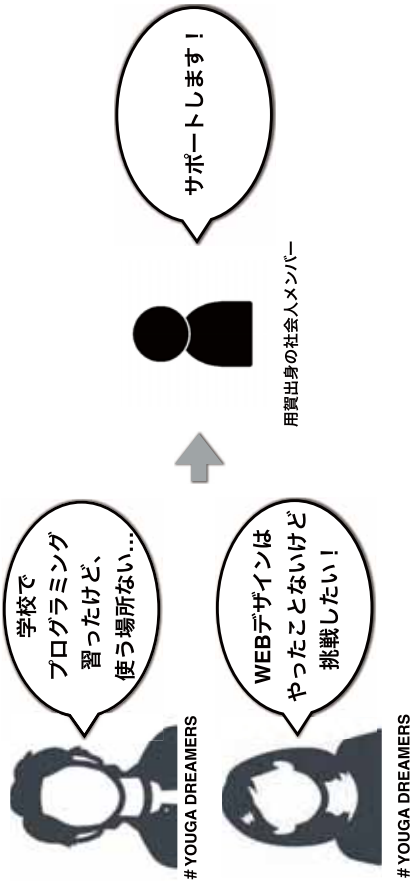


DREAMERS CASE 2.

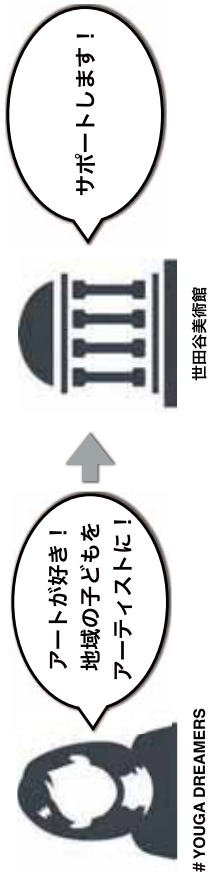




**DREAMERS CASE 3.**



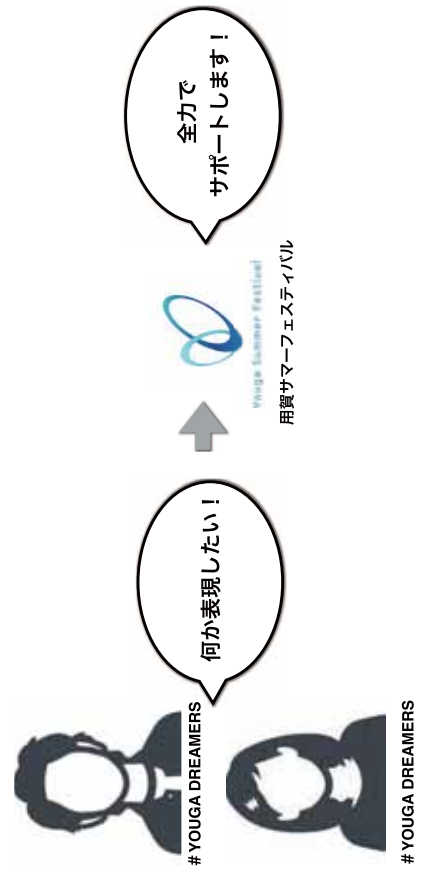
**DREAMERS CASE 4.**





用賀は、「夢どめし」の招き、マシチャン、お笑い、仮想遊具、移動式遊び場、デザイカー。夢を描き置もが体験したこののないものに挑戦する若者が出店してくれました。

**DREAMERS CASE 5.**







お祭りも結局まちの方々と  
関われるのは、当日だけ。

それなら、NPO法人を作って、  
年間通して活動をしていきたい。



■ [neoichi] のコンセプト

おいしいジモト、見つけたぞ。



[neoichi] は名の通り、「おいしいジモト」を探します。もともとは創発の京都「唐揚サウー」や「スライヤ」も、愛用している学生団体だったのですが、より地域に密着するた  
めに京都府64市に加盟店・出店を拡大してしまっただけで、スタッフの方は京都府  
外の方もいらっしゃいます。用件は外の方も、「京都府人である」、「京都に人脈が  
ある」など「この街が好き」という気持ちがあれば「ジモト」になる、そんな考えから  
への強い思いを感じました。

「サウー」は「おいしいジモト」です。本店のジモトの食材を、用件から200のジ  
モトまで、盛り上げるかを考え、スタッフ自らも京都府産のジモトが買われていま  
す。



## チーム用賀



## ●チーム用賀とは？



「チーム用賀」は、用賀に住む人、用賀で学ぶ人、用賀でお店をやっている人、用賀で働く人、用賀出身の人、用賀に親戚や友人がいる人、など用賀に縁のある方々が地域の枠を超えて集まり、活動したり情報交換したり助け合ったりする「新しい地域コミュニティ」を目指しています。

### ●まちの掲示板

新店舗、イベントなどまちの情報だけでなく日常の風景や雑談まで



### ●現代版「花掛け」

用賀サマーフェスティバルを、みんなでつくる。



No.	クラフター名	クラフターグループ (電話番号)	リーダーから一言	クラフターURL	備考
1	用賀BLUE HANDS 1 (ゴミ拾い活動)	用賀 (03-5482-1111) https://www.facebook.com/yanagahabluehands/	毎月1回開催！ 用賀のゴミを拾おう！ - 2週間毎の2回AM 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagahabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
2	トクニク部	石川 直井 浩二 https://www.facebook.com/tokunikubu/	石川 直井 浩二 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/tokunikubu/	今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
3	ランニング部 (用賀BLUE HANDS)	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	毎週月曜日のランニング活動です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
4	日本酒部	真奈美 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	日本酒好きが集まる会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
5	カラオケ部	真奈美 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	カラオケ好きが集まる会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
6	用賀サマーフェスティバル部	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	用賀サマーフェスティバルの準備です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
7	用賀の歴史研究会	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	用賀の歴史を学ぶ会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
8	チーム部	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
9	読書部	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	読書好きが集まる会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。

### ●スピンオフコミュニティ

用賀BLUE HANDSからファーマーズ・物々交換ネットワークetc..



### チーム用賀の活動例

No.	クラフター名	クラフターグループ (電話番号)	リーダーから一言	クラフターURL	備考
1	用賀BLUE HANDS 1 (ゴミ拾い活動)	用賀 (03-5482-1111) https://www.facebook.com/yanagabluehands/	毎月1回開催！ 用賀のゴミを拾おう！ - 2週間毎の2回AM 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
2	トクニク部	石川 直井 浩二 https://www.facebook.com/tokunikubu/	石川 直井 浩二 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/tokunikubu/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
3	ランニング部 (用賀BLUE HANDS)	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	毎週月曜日のランニング活動です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
4	日本酒部	真奈美 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	日本酒好きが集まる会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
5	カラオケ部	真奈美 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	カラオケ好きが集まる会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
6	用賀サマーフェスティバル部	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	用賀サマーフェスティバルの準備です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
7	用賀の歴史研究会	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	用賀の歴史を学ぶ会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
8	チーム部	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。
9	読書部	松井 直井 浩二 https://www.facebook.com/yanagabluehands/	読書好きが集まる会です！ 用賀を元気にしよう！	https://www.facebook.com/yanagabluehands/	各自コロナ対策を充分した上で参加ください！ 今夏暑い季節感を感じます。一足も涼しく過ごしたいです。

●他地域との関係性を勝手に育む (新潟県十日町市まつだい)

個人的関係性をメタ化し、地域間同士の関わりしろをつくる。重層的なプロセスをシンプルに。



●他地域との関係性を勝手に育む (栃木県鹿沼市)

個人的関係性をメタ化し、地域間同士の関わりしろをつくる。重層的なプロセスをシンプルに。



今年のテーマ： **THANKS**

**用賀サマーフェスティバル2023**  
Yogita Summer Festival 2023

**#Youga Thanks**  
まちへの感謝をカタチに。

**8/26(sat) - 8/27 (sun) 15:00~20:30**  
NEOMURA

開催場所：用賀駅くすのき公園周辺  
主催：用賀サマーフェスティバル実行委員会 / NPO法人neomura  
お問い合わせ：yof@neomura.org.jp

QRコードとSNSアイコン (Twitter, Facebook, Instagram) が表示されている。

neomura